

## 1. 背景と目的

近年、循環型社会の形成が望まれる中で、3R、中でも2R（リデュース、リユース）の促進が求められている。住環境とかがわりの深い家具・家電についてみると、中古への排出割合は15%前後と低く[1]、さらにリユースを促進させることが重要である。特に一人暮らしの大学生のほとんどは、大学生になって初めて独立して暮らすため、この時期に2R行動を行うことで今後の2R行動や意識が変化する可能性がある。また一般に一人暮らしの期間は製品の平均寿命より短いため、リユース・長期使用の可能性が大きいと考えられる。このことから大学生の家具・家電の2Rを促進することは重要である。しかしながら大学生の家具・家電のリユースの実態や意向等については明らかとなっていない。

そこで本研究では一人暮らしの大学生について家具・家電の入手から排出に至る行動・意識の実態を明らかにするとともに、2Rの取り組みに対する利用意向を明らかにすることを目的とする。なおスペースの関係上、排出に関する研究内容は割愛する。

## 2. 研究方法

初めに大学生が利用可能だと思われる家具・家電の2Rの取り組み事例の文献調査を行った。次に予備調査として20代の一人暮らし経験者に質問紙調査及びヒアリング調査を行い、さらに本調査として現在20歳から35歳で大学時代に一人暮らしをしていた人を対象にインターネット調査を行った。主な調査項目は、家具・家電の入手・排出方法、家具・家電の2Rの取り組みに対する意識である。予備調査は2017年6月28日～8月19日に、本調査は2017年12月8日～2018年1月3日に行った。本調査はインターネット調査(JustSystem社のFastask)を使用した(先着締切方式)。本調査ではまずスクリーニング調査として回答者の男女年齢層がほぼ均等になるように2,207名の回答を得た(配信数32,941名)。その結果に基づき学生時代に一人暮らしをしていた人を抽出し、本調査として372人に配信、327人の回答を得た(回収率87.9%)。なお回答に矛盾があり同一の回答が多い回答者8名は上記回収数に含めていない。

## 3. 学生時代の2R行動の実態

家具と家電の入手方法について尋ねた結果、表1のような結果となった。ただし入手と排出の質問に矛盾のあった回答者を除いて集計した。

新品購入者の割合は、エアコンを除く家電で60～65%程度、エアコンは約25%、家具で45～60%程度

表1 一人暮らし開始時の家具家電入手方法

	n	新品	中古	下宿に備え付け
テレビ	298	64.8%	31.5%	3.7%
洗濯機	302	60.6%	28.8%	10.6%
冷蔵庫	310	64.2%	27.1%	8.7%
エアコン	293	25.9%	16.4%	57.7%
電子レンジ	301	65.1%	28.2%	6.6%
ベッド	262	59.2%	30.5%	10.3%
机	229	48.0%	40.2%	11.8%
テーブル	273	56.0%	38.1%	5.9%
衣装収納家具	263	46.8%	32.7%	20.5%

となった。従って中古または下宿に備え付けの利用割合は、エアコンは備え付けが多いため約75%と高くなっているが、その他は35～55%程度であり、中古利用に関しては改善の余地があることが示唆される。

中古入手の内訳を表2に示す。

表2 一人暮らし開始時の中古入手方法

	n	自宅	中古販売店	ネット等	フリマ等	知人等
テレビ	94	50%	16%	14%	9%	12%
洗濯機	87	26%	30%	13%	8%	23%
冷蔵庫	84	23%	23%	29%	6%	20%
エアコン	48	15%	31%	27%	17%	10%
電子レンジ	85	36%	20%	13%	9%	21%
ベッド	80	40%	19%	24%	8%	10%
机	92	37%	24%	15%	12%	12%
テーブル	104	44%	18%	17%	11%	10%
衣装収納家具	86	40%	22%	16%	12%	10%

最も多い回答は、テレビと電子レンジ、家具類では自宅にあったもので、洗濯機、エアコンはリサイクルショップで購入、冷蔵庫ではネットで中古を購入であった。「自宅」を除いて一般のリユース実態と比較すると学生の一人暮らし時は家電4品目ではネットの割合が少なく、フリマ、知人等の割合が多い。家具ではリサイクルショップの割合が少なく、フリマ、知人等の割合が多かった。知人等の割合が多いのは学生は先輩等の知人からもらう可能性が多いためであると考えられる。

## 4. 2Rの取り組みの実態と利用意向

文献調査により、一般的なリユース方法であるリユースショップやインターネットショッピングサイト、インターネットオークション、フリーマーケット[1]に加えて、学生が利用できるリユース等2Rの取り組みとして、家電リース（主に単身赴任や一人暮らしを対象に家具や家電をレンタルする事業）[2,3]や家具家電付き戸（主な家具、家電が付随している賃貸住宅）[4]、リサイクル市（大

学のエコサークル等による、卒業生の家具・家電を引き取り新入生に譲渡する取り組み) [5, 6, 7]などが確認された。これらについては上記の通り一部調査はあるものの、全国的な大学生の利用実態や利用意向等は明らかになっていなかった。

そこで学生時代、上記の2Rの取り組みが利用できる環境にあったか尋ねた。その結果リサイクルショップが最も高く、30%強の人があったと答えた。次いでリサイクル市とフリーマーケットが25%弱で、その他の方法は2割以下であった。またいずれも利用できる環境になかった人が約4割あった。一方、前述のような家具・家電の2Rの取り組みに対する利用意向も尋ねたところ、いずれの取り組みも3～4割程度の利用意向で、いずれかの取り組みで入手意向がある人は6割程度であった。このことから地域に応じて可能な取り組みを進めていくことで、2Rを一定程度推進できると考えられた。ただし家具家電付き賃貸住宅や家電リースレンタルの利用は価格に依存する。参考までに京都市内ではほぼ同条件の家具家電付き賃貸住宅とそうでない住宅の価格を事例的に調べたところ差額は平均月額3千円程度であった。そこで支払意思額を尋ねたところ、月額3千円の追加的負担時の利用意向は新品の家具家電で34.3%、2年使用で24.1%、5年で15.8%、10年で13.1%であった。今回の調査では主な家具家電がほぼすべてついた住宅に住んでいた人はごくわずかだったことから、広報等で周知することによりこうした住宅の利用者が増加する可能性があると考えられる。

### 5. 学生時代の2R意識と行動分析

学生時代の意識や属性等が中古及び新品で入手した品目数に与える影響について変数減少法の重回帰分析により分析した。結果を図1に示す。数字は標準偏回帰係数を表す。中古で入手した品目数では、「家具や家電は価格が高くても新品がいいと思っていた」(新品志向)、「一人暮らし以前に中古品売買の経験があった」人、「家具や家電を中古で購入することは環境に良いと思っていた」人、「人が使ったもの(中古品)を使うのは嫌だった」人、東北の大学に通っていた人で、有意に多い傾向にあった。一人暮らし以前に中古品売買の経験があった人は2割程度、家具や家電を中古で購入することは環境に良いと思っていた人は3割程度で、中古入手品目数に影響があることから、身近にある中古品売買の取り組みを周知することや中学、高校等で2Rに関する教育を行うことにより中古入手が増加する可能性がある。

一方、新品購入数では新品志向、親の勧めが有意に正に、東北・九州の大学に通っていたことが有意に負に影響していた。東北の大学で中古利用が多い人は若い人に多く、震災の影響の可能性もある。

また一人暮らし時の中古入手数と卒業後の中古入手数、今後の中古入手利用意向について相関分析を行なった結

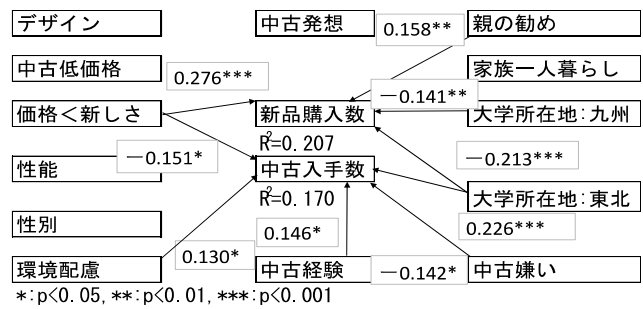


図1 中古・新品の入手品目数に対する意識・属性等の影響果、どちらも有意な正の相関があった(卒業後:  $r = 0.204$ ,  $p < 0.001$ 、意向:  $r = 0.274$ ,  $p < 0.001$ )。大学時代の中古利用が卒業後の中古利用を促進する可能性を支持する結果となった。

### 6. 結論

本調査から得られた結論を以下に列挙する

- 1) 新品を購入した割合はエアコンを除く家電で60～65%程度、エアコンは約25%、家具で45～60%程度であり、中古利用を増やす余地がある。また大学生の一人暮らし時に先輩等、知人からもらう場合があるため一般のリユース実態と比較すると学生の一人暮らし時は家電ではネットの割合、家具ではリサイクルショップの割合が少なくフリマや知人等の割合が多い。
- 2) 家具・家電の2Rの取り組みを利用できる環境になかった人の割合は約4割であった。一方、候補として挙げたいずれの2Rの取り組みも3～4割程度の利用意向があったことから、地域に応じて可能な取り組みを進めていくことで2Rを推進できると考えられた。
- 3) 中古入手品目数に有意に影響していた要因には新品志向や大学所在地(東北)のほかにも中古品売買の経験や環境配慮があり、この点に働きかけることで中古利用を促進できる可能性が示唆された。
- 4) 学生時代の中古利用経験は、その後の中古利用の意向や実施と有意な相関があり、学生時代の中古利用が卒業後の中古利用を促進する可能性が示唆された。

【参考文献】[1]平成27年度使用済製品等のリユース促進事業研究会, <http://www.env.go.jp/recycle/circul/reuse/index.html> / [2]今堀洋子・盛岡通(2003), 循環型社会を促す家電リースシステムに関する調査研究, 環境システム研究論文集 Vol.31, pp.343-349 / [3]松永文江(2011), 行政・市民・学生共働によるリユース活動「福岡大学リサイクルマーケット」, 廃棄物資源循環学会誌, Vol.22, No.4, pp.297-299 / [4]札幌家具付マンション Avenue 札幌アパマンプラザ賃貸事業部, 札幌学生賃貸住宅アンケート, 札幌市内の大学生・札幌での家具・家電付き物件についてのアンケート調査(2004) [http://www.kagutsuki-mansion.com/ave\\_enquete.shtml](http://www.kagutsuki-mansion.com/ave_enquete.shtml) / [5]吉田宣幸・早瀬光司(1998), 大学におけるリサイクル市の立ち上げとその法・経済的・人的および環境的側面に関する研究, 廃棄物学会論文誌, Vol.9, No.7, pp.318-325, / [6]井山慶信・竹田慶・早瀬光司(2004), 大学におけるリサイクル市の中断再起および継続運営に関わる要因分析, 廃棄物学会論文誌, Vol.15, No.3, pp.208-214 / [7]大森正之・重澤康裕・中村拓也・松田峻・山崎大樹・渡邊君子(2009), 環境負荷低減性・経済性に優れたリースビジネスの普及戦略, [http://www.kisc.meiji.ac.jp/~omorizem/files/10\\_lease.pdf/](http://www.kisc.meiji.ac.jp/~omorizem/files/10_lease.pdf/)